

文学部教員研究活動一覧

(平成 28 年度)

植村 玄輝

著書

1. 『真理・存在・意識：フッサール『論理学研究』を読む』知泉書館、2017年3月、312頁。

論文

1. 「『作品 (Werk)』としての真理：1920年代のフッサールと認識の現象学の行為論化」、日本哲学会林基金若手研究者研究助成成果報告論文、2016年10月 (URL: <http://philosophy-japan.org/wp-content/uploads/2017/02/f2f8b0ef2633e5f2fef1d3ea626474b1.pdf>)
2. 「記述と論証——ブレンターノとフッサールの場合」、河本英夫・稲垣諭編、『現象学のパースペクティヴ』、晃洋書房、2017年3月、3-15頁。

研究発表

1. 「実在論を立て直すのになぜ現象学が必要なのか——ドレイファスとテイラーの「接触説」、ワークショップ「媒介論的描像を抜け出して多元的実在論へ——ドレイファスとテイラーの現象学」における提題、日本現象学会第38回研究大会、2016年11月27日、高千穂大学(東京都杉並区)。
2. “What is it Like to be Motivated? An Answer from Alexander Pfänder.” The 7th PEACE Conference, December 18,

2016, University of Tokyo (Komaba Campus),

3. “On the Intentional Structure of (Hetero-Induced) Shame/Pride.” Social Self-Conscious Emotion, the Second Cork Annual Workshop on Social Agency (CAWSA II), March 15, 2017, University College Cork.
4. 「フッサールによる「世界無化」の考察は何をどこまで示したのか——『イデーンI』§§47-49再訪」、第15回フッサール研究会、東京大学本郷キャンパス、2017年3月25日。

王 安

論文

1. 単著

「行為連鎖から見る感情表出の使役文と形容詞文との関連性——日中両言語の感情の捉え方を比較して——」『日本認知言語学会論文集』第17巻、2017年3月

研究発表

1. 「行為連鎖から見る感情表出の使役文と形容詞文との関連性」、日本認知言語学会第17回全国大会、2016年9月、明治大学、単独

大貫 俊夫

論文

1. 「ホスピタリティの起源とキリスト教修道制」、『神奈川大学評論』、86号、2017年3月、2-7頁

研究発表

1. 「改革修道制におけるカリスマと文書主義—シトー会と隠修士運動をめぐる一試論」、第66回日本西洋史学会大会、2016年5月22日、慶應義塾大学
2. 「中世ヨーロッパの修道院における看取り(2) —ハイスターバッハのカエサリウス『奇跡についての対話』を手掛かりに」科学研究費補助金基盤研究(B)「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな〈老年学〉の構築」第6回研究会、2016年11月3日、東京大学

大杉 洋

研究発表

1. ファウストの復活をめぐって、岡山大学文学部ヨーロッパ言語文化研究会、2016年7月2日、岡山大学。
2. ゲーテにおけるKörperについて、日本独文学会中国四国支部研究発表会、2016年11月5日、香川大学。

その他(翻訳、事典項目、書評等)

「書評」

1. ゲーテ『ファウスト』における統一性と多様性をめぐる問いかけ—田中岩男著『『ファウスト』研究序説』—、『モルフォロギア』第38号、ナカニシヤ出版、2016年10月30日、130-133頁。

岡本 源太

論文

1. 「イメージにおける自然と自然の「大分割」を超えて—イメージ論の問題圏(三)」、『現代思想』第45巻第4号(2017年3月臨時増刊号「人類学の時代」総特集)、2017年2月、317-325頁

研究発表

1. 「ジオルダーノ・ブルーノを読むジョン・トーランド—汎神論の発明」、第22回新潟哲学思想セミナー、2016年9月8日、新潟大学(新潟)
2. 「アンドレ・ブルトンと想像力の問題—シュルレアリスムとルネサンスのあいだで」、美学会第67回全国大会、2016年10月9日、同志社大学(京都)

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. [書評]「ジオルジョ・アガンベン『ニンファ その他のイメージ論』(高桑和巳編訳、慶應義塾大学出版会、2015年)」、『図書新聞』第3251号、2016年4月16日
2. [書評]「ジオルジョ・アガンベン『身体の使用』(上村忠男訳、みすず書房、2016年)」、『週刊読書人』第3145号、2016年6月24日

京 健治

論文

1. 並列表現「〜ツ〜ツ」の消長に関する考察—動作作用の並列表現の推移補遺—『西日本国語国文学』、第3号、平成28年7月、44~57頁
2. 接続助詞「たり」の展開覚書—江戸期の用法を中心に—『国語と教育』、41号、平成28年11月、216~228頁

3. 古代語に於ける〈終止形による条件表現〉に関する考察—院政鎌倉期を中心に—
『岡大國文論稿』、第45号、平成29年3月、1～13頁

研究発表

1. 文法史と「不十分終止」—近代語に於ける古形残存の経緯—
(平成28年度長崎大学国語国文学会、平成28年11月26日、長崎大学教育学部)
その他(翻訳、事典項目、書評等)

新刊紹介

1. 大坪併治博士著『平安時代における訓點語の文法 上』(大坪併治著作集5)／『平安時代における訓點語の文法 上』(大坪併治著作集6)
(『岡大國文論稿』、第45号、68～70頁)
2. 大坪併治博士著『訓點資料の研究』(大坪併治著作集7)
(『岡大國文論稿』、第45号、70～71頁)

金関 猛

論文

1. 「ジークムント・フロイト／マルタ・ベルナイス『婚約書簡』について(一)—精神分析の胎動—」『岡山大学文学部紀要』第65号 2016年7月 33-48頁
2. 「ジークムント・フロイト／マルタ・ベルナイス『婚約書簡』について(二)—精神分析の胎動—」『岡山大学文学部紀要』第66号 2016年12月 1-14頁

研究発表

1. 「ジークムント・フロイト／マルタ・ベルナイス『婚約書簡』と『夢解釈』の「イルマの注射の夢」をめぐる—精神分析の萌芽—」、第65回日本独文学会中国四国支部研究発表会、2016年11月5日、香川大学

金子 真

著書：論文集の1章を担当

1. « Une analyse de la coordination des noms nus en français en termes de TOUT COORDONNÉ ». In Gautier, E. Havu, Eva & D. Van Raemdonck (dir.) DéterminationS (Series: GRAMM-R. Studies of French Linguistics vol. 30). Bruxelles: Peter Lang, 2016年4月, pp. 69-83.

論文

1. « Distribution sur les membres interdépendants - une analyse de la coordination nue en français ». Actes du 5ème Congrès Mondial de Linguistique Française, 2016年7月
http://www.shs-conferences.org/articles/shsconf/pdf/2016/05/shsconf_cmlf2016_12010.pdf

研究発表

1. « Distribution sur les membres interdépendants - une analyse de la coordination nue en français », 5ème Congrès mondial de la linguistique française, 2016年7月4-8日、ツール大学
2. « Different syntax and common semantics of referentially vague indefinites », 2016年11月3-4日、Rencontres d' Automne de Linguistique formelle (RALFe 2016)、パリ第8大学 / CNRS.
3. 「三つのタイプの認識的不定表現」、第71回北大阪言語フォーラム (Forum for Linguistics Kita-Osaka) 2017年2月19日、箕面市中央生涯学習センター第1会

議室

その他

Laboratoire Structures Formelles du Langage UMR 7023のプロジェクト研究 Langues et Grammaires en (Île-de-) France (LGIDF) の資料作成

lexique : <http://lgidf.cnrs.fr/node/339>

textes : http://sfl2.prod.lamp.cnrs.fr/jeux-lgidf/histoire_ane/japonais.html

interactions de base : <http://lgidf.cnrs.fr/japonais-interactions>

fiche didactique : <http://lgidf.cnrs.fr/sites/lgidf.cnrs.fr/files/images/JAPONAIS.08.05.16.pdf>

栗林 裕

論文

1. Psycholinguistic investigation of subject incorporation in Turkish. In: Csató É. Á., Karakoç, B. and A. Menz (eds.) *The Uppsala Meeting: Proceedings of the 13th International Conference on Turkish Linguistics. Series Turcologica Band 110.* Wiesbaden: Harrassowitz Verlag. 2016. pp.144-150.共著[審査有]

研究発表

1. Türkiye Türkçesi ve Çağdaş Türk Lehçelerinde İki Unsuru Fiilden Oluşan Birleşik Fiiller.(セミナー、サカリヤ大学、トルコ サカリヤ 2016年4月4日)[招聘による渡航].
2. Karşılaştırmalı Dil Bilimi -Türkçe ve Japonca-.(セミナー、サカリヤ大学、トルコ サカリヤ 2016年4月5日)[招聘による渡航].
3. Japonya'da Türkoloji Çalışmaları.(招待

講演、サカリヤ大学、トルコ サカリヤ 2016年4月8日)[招聘による渡航].

4. 「カシュカイ語の主題とその構文的特徴」言語の類型的特徴をとらえる対照研究会第3回公開発表会(大阪府立大学I-siteな んば 平成28年12月17日)2017.
5. 「トルコ語のナル表現について」類型論を視野に入れた『ナル表現』研究会(創価大学 平成29年3月9日)2017.[招聘]
6. 「トルコ語の数量詞遊離」2016年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」(京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター 平成29年3月30日)2017.

佐々木 守俊

著書

1. 『平安仏教彫刻史にみる中国憧憬』、中央公論美術出版、2017年1月、総頁数346頁
- 論文

1. 「五台山「一百万殊」像から蓮華王院千体千手観音菩薩像へ」(『岡山大学文学部紀要』65号、2016年7月、1～17頁)
2. 「広重の中国趣味」(『美術フォーラム21』34号、2016年11月、97～102頁)
3. 「錦絵新聞に描かれた欧米人」(遊佐徹編『近代アジア世界における自己表象』(岡山大学文学部プロジェクト研究報告書24)、2017年3月、9～19頁)

研究発表

1. 「シーボルト・コレクションの彫刻」、国際シンポジウム「シーボルト・コレクションから考える」、2016年7月30日、国立歴史民俗博物館

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「シーボルト・コレクションの彫刻」(国

立歴史民俗博物館監修『よみがえれ！シーボルトの日本博物館』展図録、青幻社、2016年7月、167頁)

2. 「人間性と国民性」『自由思想』143号、2016.12/ pp.64-67

姜 克實

論文

1. 「坂本、瀬谷支隊の台見庄撤退の経緯(三)——1938年4月」『岡山大学文学部紀要』65号2016年7月、pp.49-65
2. 「「公益」と「愛」の間で——留岡幸助の感化教育論」(解題論文)『留岡幸助・感化事業とその管理法』日本の司法福祉の源流をたずねて2, 慧文社、2016年、pp. 245-252
3. 「台見庄派遣部隊の初戦」『岡山大学文学部紀要』66号2016年12月 pp.21-36
4. 「台見庄戦役における日本軍の死傷者数考証」『軍事史研究』52-3、軍事史学会、2016年12月 pp.145-160.
5. 「台見庄作戦の概観」『岡山大学社会文化科学研究科紀要』第43号2017年3月 pp.1-21
6. 「平型关大捷日军死伤数考証」『文化共生学研究』岡山大学大学院社会文化科学研究科、第16号、2017年3月、pp.61-85(中国語)
7. 「犬養毅與辛亥革命」『黄自進, 潘光哲主編, 近代中日關係史新論』台灣: 稻鄉出版社, 2017年3月, pp.37-108。(中国語)

その他

1. Review of "Ajia"o Kangaeru 2000-2015, Fjiwara Shoten editorial staff, ed., June, 2015, Journal of Cultural Interaction in East Asia. Society for Cultural Interaction in East Asia. Volum7, 2016

清家 章

研究発表

1. The trend toward patrilineality during Kofun Period (3rd century to 7th century) in Japan 世界考古学会議2016年8月、同志社大学
2. The changes in systems of chiefly succession during the Kofun Period 世界考古学会議、2016年8月、同志社大学
その他(翻訳、事典項目、書評等)
1. 清家章「論文展望 清家章『古墳時代中期後葉・後期の親族構造再論』史林第99巻1号」『季刊考古学』136号 p.118
2. サム=ニクソン著 清家章(翻訳) 2016.6 「マリ共和国 エスーク・タドメッカ遺跡」『考古学研究』63巻1号 pp.87-89

高野 宏

研究発表

1. 「旧久米郡中央町における村落社会の変容」、地域地理学会、2016年6月26日、岡山大学。
その他(翻訳、事典項目、書評等)
1. 「組織」、壬生の花田植調査委員会編『壬生の花田植—壬生の花田植現況調査報告書一』北広島町文化遺産保存活用実行委員会、2017年3月、83-96頁。
2. 「アンケートの成果」、壬生の花田植調査委員会編『壬生の花田植—壬生の花田植現況調査報告書一』北広島町文化遺産保存活用実行委員会、2017年3月、303-317頁。

竹島 あゆみ

論文

1. ヘーゲルにおけるセクシュアリティ——愛、快楽と必然性——、『近世哲学研究』、第20号、2017年3月、55-77頁

堤 良一

研究発表（シンポジウム）

1. 「『直接経験』にもとづかない記憶指示用法について～長崎方言調査で見えてきたもの～」、共同、2016年4月30日、特別シンポジウム「バリエーションの中での日本語史」大阪大学、（登壇者、岡崎友子・堤良一・藤本真理子）

出村 和彦

論文

1. 「アウグスティヌスにおける「貧困」、「病」そして「老齢」』、『パトリスティカー教父研究』第20号、2017年1月、7-26頁

研究発表

1. 「アウグスティヌスと聖書」慶應義塾大学文学部山本敏夫記念講座、2016年4月19日、慶應義塾大学、
2. 'Diagnosis and Care of the Self — Poverty and Diseases in Augustine's Confessions,' 2016年7月29日、Centre for Early Christian Studies Australian Catholic University (Brisbane)
3. 'The Survival of Philosophia- in the Case of Augustine', 2016年9月9日、Asia-Pacific Early Christian Studies Society, The 10th International Conference, St. Petersburg State University of Aerospace Instrumentation, Russia
4. 「老いの境界—古代思想の知見から—」、

2016年11月3日、第6回ネオジェロントロジー研究会、於東京大学柏キャンパス

中谷 ひとみ

論文

単著

1. 「怒りの表象 (narrative)、憤怒の練習曲 (etude) —プロダ『保育園落ちた日本死ね!!!』と文学」、『岡山大学文学部紀要』、第66号、2016年(12月)、81-99頁

中谷 文美

論文

1. 「『価値ある仕事』としての家事—オランダ社会における専業主婦の主流化と周縁化をめぐる—」『経済社会とジェンダー：日本フェミニスト経済学会誌』1巻、2016年11月、3-15頁。

研究発表

1. "Cultural Heritage as commodity: Production and Consumption of Traditional Textiles in Indonesia," Association of Asian Studies (AAS) in Asia, 24-27 June, 2016, 同志社大学。
2. 「〈価値ある仕事〉としての家事—オランダの事例を中心に」京都市人類学研究会12月季節例会シンポジウム「〈仕事〉への人類学的アプローチ：家事、労働、手仕事から考える」招待講演、2016年12月10日、京都大学人文科学研究所。

中東 靖恵

論文

1. 「岡山県総社市における「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の立ち上げと展開—行政と取り組む地域日本語教

育の仕組み作り—』『岡山大学文学部紀要』
66号、2016年12月、pp.37-53、単著

講演

1. 「ブラジルの中の日本を歩く—移民がつなぐ日本とブラジル—」文学部講演会「岡大文学部発：世界の街歩き」シリーズ第4回、2016年7月30日、岡山大学文法経1号館2F会議室
2. 「総社市における多文化共生のまちづくりとしての地域日本語教育事業」（公財）全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所（JIAM）平成28年度「多文化共生の地域づくり」コース、2016年8月31日、全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所
3. 「行政と取り組む「まちづくり」としての地域日本語教育事業：岡山県総社市を例に」（公財）全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所（JIAM）平成28年度「多文化共生マネージャー養成」コース、2017年1月17日、全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所

その他（翻訳、事典項目、書評等）

【報告書】

1. 『総社市における多文化共生推進施策に関する意識調査報告書』2016年6月、総社市市民生活部人権・まちづくり課国際・交流推進係、A4、36頁（編著）
<http://www.city.soja.okayama.jp/jinken-machi/kurashi/tabunkakyousei/tabunkachousa.html>

中尾 知代

その他（翻訳、事典項目、書評等）

※フルブライト（日米教育委員会）リサーチスカラーによる海外調査の報告と考察

1. 「オバマ大統領の広島訪問をふりかえって～選挙、軍事和解、アメリカにおける原爆の位置づけと捕虜問題との関係」
The Huffington Post ハフィントンポスト（WEB掲載）7月8日
http://www.huffingtonpost.jp/tomoyonakao/obama_japan_b_10874778.html
2. 「オバマ大統領の広島訪問をふりかえって（2）原爆正当説VS原爆は不要だった説——元捕虜と歴史家たちの声——」
The Huffington Post ハフィントンポスト 7月13日
http://www.huffingtonpost.jp/tomoyonakao/obama_hiroshima_b_10935170.html

新納 泉

研究発表

1. 「アイルランドの考古学から」日本ケルト学会、2016年4月24日、福岡市健康づくりサポートセンター
2. 「イギリス ヒルフォート遺跡の保存整備と活用」文化財保存全国協議会第47回佐賀大会、2016年6月9日、佐賀市グラウンデはがくれ
3. 「摩訶不思議なアイルランド—鉄器時代の比較考古学—」H28年度社会文化科学研究科公開講座、2016年7月2日、岡山大学
4. 「前方後円墳の設計原理」第51回地盤工学研究発表会、2016年9月14日、ホテルグランヴィア岡山

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「教科書の天皇陵古墳」『世界遺産と天皇陵古墳を問う』思文閣出版、2017年1月、181-199頁

長谷川 芳典

論文

1. 行動分析学における「自己」関連概念(1) スキナーの『科学と人間行動』および初期の著作. 岡山大学文学部紀要、65、2016年7月、1-28.
2. スキナー以後の心理学(24)「般化オペラント」概念の意義と課題. 岡山大学文学部紀要、66、2016年12月、1-20.

藤井 和佐

著書

1. 共編『哲西—フィールドワーク報告書』、藤井和佐・松村圭一郎編、岡山大学文学部人文学科行動科学専修コース社会学・文化人類学教室、2017年3月、総169頁
2. 共編『集落のあり方研究事業報告書』(平野正樹総括責任者・藤井和佐研究責任者、平成28年度岡山県委託事業「集落のあり方に関する研究」研究成果報告書)、国立大学法人岡山大学、2017年3月、総70頁

研究発表

1. 単独「「地域の『農』をあきらめない」人びと～宮城県大崎市における協業事例～」、日本社会学会第89回大会(農業・農村地域の社会解体的危機に抗する〈住民の力〉(研究活動委員会企画テーマセッション)、2016年10月9日、九州大学
2. 共同「架橋で地域社会の生活環境はどう変わるか～瀬戸内・日生諸島の場合～」(登壇者：藤井和佐、共同研究者：松村圭一郎、中谷文美、高谷幸、北村光二)、福武財団2016年度助成成果発表大会ポスターセッション、2016年10月29日、サンポートホール高松

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 講演:「文化を活かした地域づくり」、「総社観光大学～古代吉備のロマン学～」講義VI(岡山県総社市)、2015年8月23日、岡山県立大学
2. 随筆:「移住～“旅の人”“風の人”の里づくり～」『まほら』第89号、旅の文化研究所企画・発行/(株)芳林社編集制作、2016年10月、40-41頁

松村 圭一郎

著書

1. 『現代エチオピアの女たち：社会変化とジェンダーをめぐる民族誌』、明石書店、2017年2月、302頁。うち第2章「越境する女性たち—海外出稼ぎが変える家族のかたち」(46-78頁)を分担執筆。

研究発表

1. “Food aid, land grab and food export: Rethinking the Globalized World”, presented at a panel “Aid and investment: anthropological engagement in market and non-market globalization on the peripheries of East Africa.” In IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) Inter Congress 2016, 2016年5月4日, Hotel Palace Dubrovnik, Croatia.
2. “Megabit: Waiting for a rain”, presented at a film session “Visualizing futures: audiovisual practices for a contemporary anthropology.” In 14th EASA (European Association of Social Anthropology) Biennial Conference, 2016年7月21日, University of Milano-Bicocca, Italy.

松本 直子

著書

1. 『「物質性」の人類学—世界は物質の流れの中にある—』古谷嘉章・関雄二・佐々木重洋編、同成社、2017年3月、244頁(共著：第3章「縄文土器と世界観」83-101頁を執筆)

論文

1. 「装身具の象徴的意味とその変化に関する鳥瞰的予察」、『玉文化研究』第2号、日本玉文化学会、2016年7月、1-8頁
2. Naoko Matsumoto and Mariko Sasakura 2016年10月 Cultural and genetic transmission in the Jomon-Yayoi transition examined in an agent-based demographic simulation. *Simulating Prehistoric and Ancient Worlds*, edited by Juan A. Barcelo and Florencia Del Castillo, pp.311-334. Springer.

研究発表

1. 「先史時代のジェンダーと博物館展示」、歴博基盤共同研究「日本列島社会の歴史とジェンダー」第1回研究会、2016年5月8日、於国立歴史民俗博物館
2. Persistent problem of stereotypical gender representations in archaeological reconstruction: Focusing on the prehistoric images in Japan. 第8回世界考古学会議、(セッション“Archaeologies of gender and sexuality: Where do we stand and where are we going?”を光本順氏、Mary Wisemantel氏と企画) 2016年8月28日-9月2日、於同志社大学今出川キャンパス
3. 「戦争は人間の本性か—縄文時代からみえてくること—」平成28年度地域づく

り団体活動支援事業 さっぽろ縄文探検隊3周年記念講演会、2016年10月22日、於北海道大学(招待講演)

4. 「先史時代の暴力と戦争—縄文社会からみえること—」平成28年度御所野博物館調査成果発表会、2017年2月26日、於岩手県一戸町御所野縄文博物館(招待講演)
5. Changing relationship between the dead and the living in Japanese prehistory. First Kyoto Workshop on Evolutionary Thanatology: An Integrative Approach to the Study of Death and Dying. 2017年3月24日、於京都大学

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「先史時代の右・左」2016年4月『心理学ワールド』(小特集 こころの右・左)73号、25-16頁
2. 「人骨から読み解く、平和だった縄文社会 戦争は人間の本能ではない」西日本新聞2016年7月18日第9面掲載(寄稿)
3. 「縄文時代の性とジェンダー」2016年9月、『歴博』(特集 日本列島社会の歴史とジェンダー)vol.198、2-5頁
4. 「世界考古学会議に参加して」山陽新聞2016年10月2日第16面掲載(寄稿)
5. 「日本先史時代の暴力と戦争—遺跡から学ぶ戦争の起因」北海道新聞2016年10月17日文化面掲載(寄稿)

光本 順

論文

1. 「大学所蔵資料の展示・収蔵環境に関する学芸員養成教育の実践的試み」『岡山大学文学部紀要』第65号、2016年7月、81-89頁

研究発表

1. The queer temporality of the archaeological material, 第8回世界考古学会議京都大会 (WAC-8 Kyoto)、2016年9月1日、同志社大学、(セッション Archaeologies of gender and sexuality: Where do we stand and where are we going? オーガナイザー: Jun Mitsumoto, Naoko Matsumoto and Mary Weismantel)

三宅 正浩

著書

1. 『伊賀市史』第2巻通史編近世、伊賀市、2016年9月、総頁数977頁、共著、担当頁40-78頁

論文

1. 「幕藩政アーカイブズ」研究を考える—『幕藩政アーカイブズの総合的研究』を読んで—、『岡山地方史研究』139号、2016年9月、31-34頁
2. 「近世大名の成立過程—徳川政権の武家編成—」、『九州史学』175号、2016年11月、25-39頁

研究発表

1. 「幕藩政アーカイブズ」研究を考える」、岡山地方史研究会5月例会、2016年5月14日、岡山大学
2. 「近世大名論」、中国四国歴史学地理学協会2016年度大会、2016年6月25日、岡山大学

宮崎 和人

論文

1. 「論理的な可能性について」、『岡山大学文学部紀要』、第65号、2016年7月、67-80頁

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「〔書評〕宮岡伯人著『語』とはなにか・再考—日本語文法と「文字の陥穽」—」、『日本語の研究』、第13巻1号、50-57頁

本村 昌文

著書

1. 『いまを生きる江戸思想—17世紀における仏教批判と死生観—』、ペリかん社、2016年9月、総頁数310頁
2. 荒木勝・孫路易・田口雅弘編『キャンパス・アジア共通教科書 東アジアの伝統思想への誘い—共通善を求めて—』、ふくろう出版、2017年2月(第Ⅲ部第7章 江戸時代前期の思想史—儒学を中心として—、110頁～118頁を執筆)

論文

1. 近代日本における「老年学」—寺澤巖男の「老年学」構想をめぐる—、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』43、2017年3月、21頁～40頁

研究発表

1. 「古い」をめぐる研究の回顧と問題設定、第5回ネオ・ジェロントロジー研究会、2016年9月10日、広島国際大学
2. 村岡典嗣と古代ギリシア哲学—プラトン『国家』をめぐる—、第3回蘭州大学日本語・日本文化研究会、2016年9月24日、中国・蘭州大学
3. 文科系分野の研究者の「知的基盤」研究へのアプローチ、科研費・基盤研究C「帝国大学における研究者の知的基盤に関する研究」研究会、2016年11月5日、東京大学
4. 『徒然草』注釈からみる江戸期における「古い」の観念、第8回ネオ・ジェロントロ

ジー研究会、2016年11月5日、岡山大学
 その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. （講演）あなたもケアラー？—ケアラーサポーターの光と影—、長崎大学ダイバーシティ推進センター主催・平成28年度第1回ケアラーサポーター養成研修・基調講演、2016年5月25日、長崎大学
2. （講演）日本人の死生観に寄り添う医療とは？—「迷惑をかけたくない」という意識をめぐる—、第248回岡山県耳鼻咽喉科集談会・講演、2016年11月19日、岡山大学

山本 秀樹

論文

1. 江戸時代大阪本屋仲間行司の固定的性格、『岡山大学文学部紀要』第65号、2016年7月、pp.120-132
2. 『せん年より御ふれふみ』『大坂岡山御触留』で補われる江戸時代大阪出版法令について——附、岡山大学附属図書館池田家文庫蔵『宝暦三癸酉八月ヨリ大坂岡山御触留』所収大阪触達番号一覧——、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』第42号、2016年11月、pp.21-35
3. 「菊花の約」古意、『岡大文論稿』第45号、2017年3月、pp.26-37

研究発表

1. 三タビ説ク菊花之約、岡山大学言語国文学会、2016年7月31日、岡山大学

遊佐 徹

著書

1. 「倭寇図巻」「抗倭図巻」を読む（共著）、勉誠出版、2016年4月、総454頁（担当393-431頁）

論文

1. 文廷式の来日と孫文、岡山大学大学院社会文化科学研究科『文化共生学研究』、第16号、2017年3月、43-59頁
2. みたび印画紙に焼き付けられた西太后、岡山大学文学部プロジェクト研究報告書第24号『近代アジア世界における自己表象／他者表象の形成・受容過程の研究』、2017年3月、1-8頁
3. 魯迅が書斎に飾った「像」の真像を求めて——北京・魯迅故居、「老虎尾巴」の素描・肖像・仏像——、『中国文史論叢』第13号、2017年3月、59-79頁

研究発表

1. 西太后と写真——近代中国と写真文化、2016年度文学部プロジェクト研究「見る／見られる、見出す／見出される私達——近現代社会と写真文化」第1回研究報告会、2016年12月7日、岡山大学文法経済講義棟1階17番講義室
2. 『山月記』—魯迅—『藤野先生』～「狂気」と「詩と真実」～、文学部講演会「教科書からひろがる〈知〉の世界」、2017年3月5日、岡山大学文学部会議室

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. もう一つの「学都」岡山の物語——閑谷学校を中心とする近代東アジアネットワークの研究——序、岡山大学大学院社会文化科学研究科『文化共生学研究』、第16号、2017年3月、1-3頁

【補掲】紀要第65号掲載「文学部教員研究活動」(欠落分)

紀要員委員の編集不手際により、65号で掲載漏れとなった稿を以下に補掲するとともに、執筆者の方にお詫び申し上げます。

姜 克實

論文

1. 《旧日軍档案中出現的平型関大捷》《历史学家茶座》(第三十五辑) 济南：山东人民出版社 2015.4/P.49-73
2. 「滕県作戦における日本軍の虐殺記録——日本軍史料の盲点を突く」『年報日本現代史』第20号, 2015.5./P.221-255
3. 「再考「平型関大捷」——日本軍史料からの検討」『軍事史学』51巻1, 2015.6/P.4-25
4. 「日本軍の戦史記録と台兒庄敗北論」(『岡山大学文学部紀要』63号/2015.7 /P.31-47.
5. 「国策研究会と華盛頓会議国民連合会」『岡山大学社会文化科学研究科紀要』40号/2015.11/P.13-24
6. Ishibashi Tanzan's World Economic Theory : The War Resistance of an Economist in the 1930' s Trans-Pacific Relations December 2015 Society For Cultural Interaction in East Asia C/o Research Instituges,Kansai University / P.183-199
7. 「坂本、瀬谷支隊の台兒庄撤退の経緯——1938年4月」『岡山大学文学部紀要』64号/2015.12/P.31-47
8. 「坂本、瀬谷支隊の台兒庄撤退の経緯(二)——台兒庄反転関係電報綴を通して」『岡山大学社会文化科学研究科紀要』41/2016/3/P.13-26
9. 「台兒庄の戦場における日本軍の装甲部

隊」『文化共生学研究』岡山大学大学院社会文化科学研究科、第15号、2016.3/P.53-68

長谷川 芳典

論文

1. 選択行動の実証的研究における5つの課題,岡山大学文学部紀要, 63巻, 2015年7月, 11-30.
2. スキナー以後の心理学(23)言語行動、ルール支配行動、関係フレーム理論、岡山大学文学部紀要、64巻、2015年12月, 1-30.

研究発表

1. 喫煙者に対する声かけ方略の効果～大学敷地内全面禁煙2年目を迎えて～, 第9回日本禁煙学会学術総会, 2015年11月21日、熊本市・市民会館崇城大学ホール

藤井 和佐

著書

1. 共編著『成熟地方都市の形成—丹波篠山にみる「地域力」』、藤井和佐・杉本久未子編著、福村出版、2015年11月、全239頁
2. 編著『「地域の壁」を考える』(藤井和佐研究代表、平成25-27年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究) 課題番号25570017「農林漁業地域における『地域の壁』形成に関する探索的研究」研究成果報告書)、藤井和佐編著、2016年1月、全58頁
3. 共編著『日生諸島—フィールドワーク報告書』(藤井和佐研究代表、第10回瀬戸内海文化研究・活動助成(A)「架橋で地域社会の生活環境はどう変わるか～瀬戸内・日生諸島の場合～」研究成果報告書)、松村圭一郎・藤井和佐編、岡山大学文学

部人文学科行動科学専修コース社会学・
文化人類学教室、2016年3月、全158頁

4. 共著『集落のあり方研究事業報告書』（平野正樹総括責任者・藤井和佐研究責任者、平成27年度岡山県委託事業「集落のあり方に関する研究」研究成果報告書）、国立大学法人岡山大学、2016年3月、「本研究において使用した主要用語・概念について」3-5頁・「人口動態について」66-77頁・「ミクロ分析—集落事例調査より」78-95頁(全104頁)

研究発表

1. 「地域の壁を考える(1)～その方法論及び試論～」、日本社会学会第88回大会(一般研究報告(3)地域社会・地域問題(5)地域の壁を考える)、2015年9月20日、早稲田大学
2. 「家族経営と地域農業～継承のあり方～」、日本村落研究学会中国・四国地区研究会、2015年10月17日、岡山大学

その他

1. 講演：「地域社会の一員であるということ ～意思決定の場へ～」、岡山県男女共同参画ゼミナール・公開講座(岡山県男女共同参画推進センター)、2015年8月18日、岡山県きらめきプラザ
2. 講演：「文化を活かした地域づくり」、「総社観光大学～古代吉備のロマン学～」講義Ⅵ(岡山県総社市)、2015年8月23日、岡山県立大学